

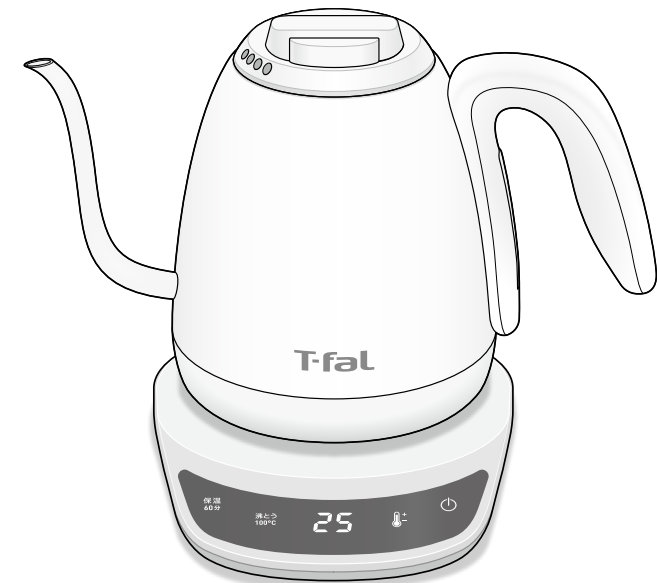
ティファール 電気ケトル

Café Lock Control

カフェ ロック コントロール 0.8L

製品番号 : KO920*

TYPE : KO92*-B



はじめに

安全上のご注意	2
使用上のご注意	5
各部の名称と機能	5

使い方

使い方	7
使い終わったら	10

その他

お手入れの方法	11
故障かなと思ったら	12
製品仕様	13

- お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- 正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
- 読み終わったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。

キリトリ線

Ref: 3206001927-03

株式会社 グループセブ ジャパン

本社 : 〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館 4F

お客様
相談センター**0570-077772**

ナビダイヤル® 受付時間: 9:00~18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

部品注文
センター**0570-086072**

ナビダイヤル® 受付時間: 9:00~18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

修理センター

※ 商品により部品としての取り扱いのない場合がございます。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。

- 本製品は家庭用です。業務用または一般家庭以外での使用や取扱説明書の指示に反する使用について、弊社は一切の製造責任と保証の責任を負いかねます。

絵表示の例



○ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が表記されています。



● 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が表記されています。



警告

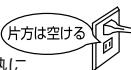
誤った取り扱いをしたときに、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

電源・電源コード



指示

定格15A・交流100Vのコンセントを単独で使用する



他の機器と併用すると、発熱による火災や故障の原因になります。

- ゆるんだコンセント、延長コード、テーパータップなどは使用しないでください。
- 海外など、異なる電源電圧の地域で使用しないでください。(当製品は日本国内専用です)

電源プラグや電源コードに損傷があるとき、または使用中に異常に熱くなるときは、ただちに使用を中止する

そのまま使うと、ショートや発火するおそれがあります。弊社修理センターまでご相談ください。

異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電源プラグを抜く

そのまま使うと、ショートや発火するおそれがあります。弊社修理センターまでご相談ください。

電源コードが傷んだり、コンセントの差し込みが緩いときは使用しない

そのまま使うと、感電、ショートや発火するおそれがあります。



指示

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全な場合、感電・発熱による火災の原因になります。

- 傷んだ電源プラグ・ゆるんだコンセントは使わないでください。

電源プラグのほこりなどは、定期的に取り除く

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。



禁止

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因になります。

電源プラグや電源コードを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、重い物を載せたり、束ねたりしないでください。傷んだまま使うと、感電・ショート・火災の原因になります。

お取り扱い



分解禁止

修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造しない

発火したり、異常作動をしてけがをするおそれがあります。



禁止

ふたを開けたまま湯を沸かさない

湯沸かし中は、確実にふたを閉めてください。湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

ふたを持ってケトル本体を移動させない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

注ぎ口をふきなどでふさがない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

本体を抱きかかえたり、傾けたり、ゆすったりしない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

水につけない

感電・ショート・火災、故障の原因になります。

直火(ガス台などや電気ヒーター)、電磁調理器(IH)、電子レンジなどに使わない

火災・熱変色・変形・故障の原因になります。

ケトル本体の底部や電源プレートを水につけたり、水に濡らしたりしない

ショートしたり、感電するおそれがあります。

標高2000m以上の場所では使用しない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

加熱中に給水しない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

ふたを勢いよく閉めない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。



禁止

ケトルを転倒させない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

子供だけで使わせたり、乳幼児の手の届く所で使わない

やけど・感電・けがをするおそれがあります。

MAX(満水)目盛り以上の水を入れない

水を入れすぎた場合、熱湯が飛び出すことがあります。やけど・感電・けがをするおそれがあります。

電源プレート中央の接続部(金属部)やケトル本体接続部や電源プラグをなめさせない

感電やけがのおそれがあります。特に乳幼児には触らせないでください。

氷を入れるなどして保冷用に使わない

内蔵の電気部品に水や露がつき、感電・故障の原因になるおそれがあります。

安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人(子供を含む)には、単独で使用させない。また、製品で子供が遊ばないように注意する

やけど・感電・けがをするおそれがあります。



指示

300ml以上の水を入れて使用する

水量が不足した状態で沸騰させると、注ぎ口から熱湯が飛び出すことがあります。

使う前に必ず、ふたの内部に水が残っていないことを確認する

水滴が蒸気穴を塞ぎ、注ぎ口からお湯がこぼれ出る原因になります。

使い終わった後は、十分に冷えたことを確認してからふたを取り外す。また、取り外したふたをよく振って、内部に残った水滴を必ず排出させる

水滴が蒸気穴を塞ぎ、注ぎ口からお湯がこぼれ出る原因になります。

安全上のご注意 (続き)



注意

誤った取り扱いをしたときに、人が損害を負う可能性および物的損害が想定される内容です。

電源・電源コード



コンセントからはずす

使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。



指示

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

感電したりショートしたりして、発火するおそれがあります。

お取り扱い



指示

コンセントに電源プラグを差し込んでいるときは、電源コードを引っかけないよう気をつける

本体が落下し、やけどやけがをするおそれがあります。



禁止

電源コードを束ねたまま使用しない

発火、故障の原因になります。

専用の電源プレート以外は使わない。また、付属の電源プレートを他の機器に転用しない

発火、故障の原因になります。

湯沸かし中または湯沸かし直後は、ふたを開けたり、注ぎ口に触れたり、蒸気に手を近づけたりしない
注ぎ口などから熱い蒸気が出て、やけどをするおそれがあります。

湯沸かし中は、移動させない

湯が流れ出たり、蒸気でやけどをするおそれがあります。

牛乳を沸かす、紅茶を煮出す、スープを作るなど、湯沸かし以外の目的で使用しない

ふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。さらに、故障や汚れの原因にもなります。

使用中および使用直後に取っ手以外の本体および注ぎ口には触れない

本体はステンレス製ですので、使用中や使用直後は非常に熱くなり、やけどをするおそれがあります。



禁止

壁や家具の近くで使わない

蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色、変形の原因になります。

ストーブやガスコンロなど熱源のそばや直射日光が当たる場所では使わない

本体のプラスチック部分が熱で損傷し、けがややけどをするおそれがあります。

ガラス窓の近くで使用しない

ヒビが入ったり割れることがあります。

不安定な場所や、熱に弱い敷物の上、可燃物の近く（カーテンの近くなど）では使わない

火災の原因になったり、けがややけどをするおそれがあります。

瓶やカップなど、水以外のものをケトルの中に入れない

ふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。さらに、故障や汚れの原因にもなります。

電源プレート中央の接続部（金属部）にピンを差し込んだり、ゴミを付着させない

感電、ショート、発火の原因になります。

使用中または使用直後はふたの蒸気穴に触れない。

蒸気でやけどをするおそれがあります。

ふたを取り付ける際は、取っ手側に蒸気穴を向けない

取っ手に蒸気があたり、やけどの原因になります。

使用上のご注意

- ケトルに水が入っていないときは、スイッチをオンにしない
故障の原因になります。
- ふたを開けた状態のまま、湯を沸かさない
本製品は、ふたをした状態で湯を沸かす仕様になっています。
- 水質改善材・浄化材（備長炭）など、水以外のものをケトルの中に入れないでください
故障の原因になります。
- 本製品は湯沸かし専用にお使いください
- 本製品は一般家庭用です
- 本製品は必ず屋内で使用してください
- 直射日光が当たる場所への本製品の設置、ご使用はお控えください
故障の原因になります。

- 長期間使用しないときは、十分に乾燥させたあと、においがつかないようにポリ袋などに入れて保管してください
- 300ml以上の水を入れてご使用ください
- 使う前に必ず、ふたの内部に水が残っていないことを確認してください
水滴が蒸気穴を塞ぎ、注ぎ口からお湯がこぼれ出る原因になります。
- 使い終わった後は、十分に冷えたことを確認してからふたを取り外してください
- 取り外したふたはよく振って、内部に残った水滴を必ず排出させてください
水滴が蒸気穴を塞ぎ、注ぎ口からお湯がこぼれ出る原因になります。

お知らせ

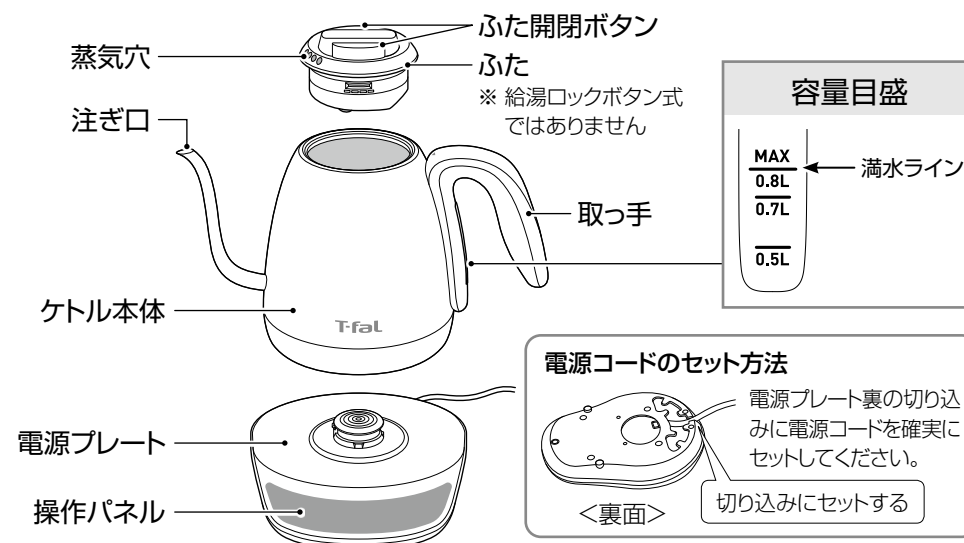
ケトルは、工場出荷前に水を入れて検品をしております。まれに、本体内に白い跡が残っている場合がございますが、検品時の水の跡ですので、2～3回すすいだ後、安心してお使いいただけます。



注意

ジャーボットと違い、湯沸かし中や沸とう後は本体が熱くなっていますので、ご注意ください。

各部の名称と機能



注意



禁止

電源コードを束ねたまま使用しない
発火、故障の原因になります。

各部の名称と機能（続き）

操作パネル

保温ボタン

設定した温度に加熱し、その後保温します。(100℃に温度設定した場合は95℃で保温されます)
温度を設定していない場合は、60℃に加熱・保温します。

沸とうボタン

水を沸とうさせます。

電源ボタン

電源をオン/オフします。
電源オン・オフ時は以下の音が鳴ります。
オン時：ピッ
オフ時：ピーピー

温度設定ボタン

設定した温度に加熱します。温度は、40～100℃の範囲で8段階に設定可能です。

現在の水温

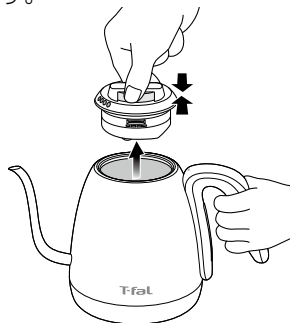
※ 操作パネルは何も押さない状態で約30分経つと、スタンバイモードになり、電源ボタン以外の表示がオフになります。(電源ボタンのみ点滅) スタンバイモード中に再度電源ボタンを押すと、すべてのボタンの表示がオンになります。

※ 電子音を消したり、音量を調節することはできません。

ふたの開け方、閉め方

開け方

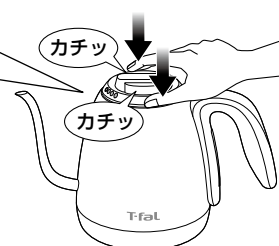
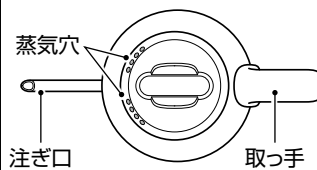
ふた開閉ボタンを押しながら、ふたを上を持ち上げます。



閉め方

蒸気穴の位置に注意して、ふたをケトル本体に戻し、上から押しこみます。

取っ手に対して反対の位置に蒸気口を向けて、ふたと取っ手の▲が向き合うようにふたを取りつけてください。



！ 注意

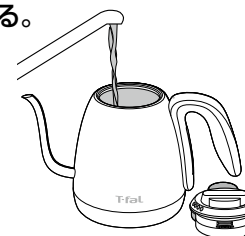
ふたを片側ずつ、カチッと音がするまで上から確実に押しこみます。ふたが完全に取り付けられていることを必ず確認してください。

使い方

！ 注意

- 初めてケトルを使用する際は、念のため最初の2～3回はすすいでからご使用ください。
- 電源プレートの上に本体を載せた状態のまま水を注ぐことはおやめください。
- ミネラルウォーターやアルカリイオン水を沸かしたときは、水に含まれるミネラル成分がケトル内部に付着しやすくなります。
- 水を入れすぎた場合、熱湯が飛び出すことがありますので、MAX（満水）以上は水を入れしないでください。また、水を入れないまま、空だきをしないでください。故障の原因になります。
- 300ml以上の水を入れてご使用ください。水量が不足した状態で沸騰させると、注ぎ口から熱湯が飛び出すことがあります。
- 水以外のものは沸かさないでください。ふきこぼれ、故障の原因になります。
- ふたがきちんと閉まっているのを確認してください。
ふたがきちんと閉まっていないとお湯が沸いてもスイッチが切れない場合があります。

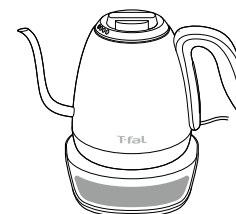
1 ケトル本体に必要な量の水を入れ、ふたを閉める。



お知らせ

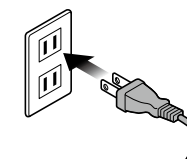
水300ml以上を入れて、ご使用ください。
水量が不足した状態で沸騰させると、注ぎ口から熱湯が飛び出すことがあります。

2 ケトル本体を電源プレートに正しくセットする。



- 電源プレートは清潔で平らなところに置いてください。
- 電源プレートにセットする際は、ケトル本体が安定していることを確認してから手を離してください。

3 電源プレートのプラグをコンセントに差し込む。



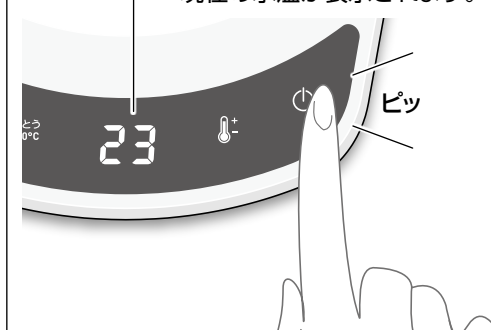
電源プレートからピーと音がします。

！ 注意

定格15A・交流100Vのコンセントを単独で使用してください。他の機器と併用すると、発熱による火災、故障の原因になります。

4 電源ボタンを押して電源を入れる。

現在の水温が表示されます。



使い方（続き）

5 操作ボタンを押して加熱を始める。



注意

加熱中は絶対にふたを開けたり、蒸気に手を近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。

温度設定モード — お好みの温度に加熱する

① 温度設定ボタンを押して、温度を設定します。

ボタンを押すごとに100℃・95℃・90℃・85℃・80℃・70℃・60℃・40℃の温度が選択できます。
※ 一度沸とうさせてから温度が下がるのではなく、直接設定温度になります。

② 温度が確定するまで3秒間待ちます。

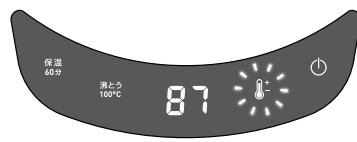
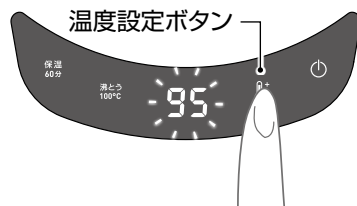
3秒間たつと温度表示が点滅から点灯に変わり、加熱が開始されます。
現在の水温より低い温度に設定したときは、加熱はおこなわれません。

- 加熱中も温度設定ボタンを押して温度設定を変更することができます。

加熱を中止するときは、
電源ボタンを押します。

お湯の温度が設定温度に到達する直前に、ピッ、ピッ、ピッと音が3回鳴り、温度到達を予告します。到達するとピーと音が1回鳴り、加熱を終了します。

- すべてのボタンが点灯します。
- 加熱時間は、水量・水温・室温などによって多少異なります。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。



加熱中は、温度設定ボタンが点滅します。

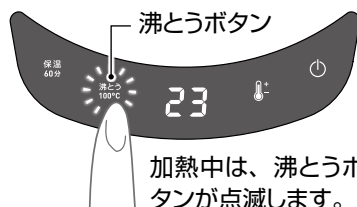
沸とうモード — 水を沸とうさせる

沸とうボタンを押すと、すぐに加熱が始まります。

加熱を中止するときは、
電源ボタンを押すか、沸とうボタンを再度押します。

お湯の温度が設定温度に到達する直前に、ピッ、ピッ、ピッと音が3回鳴り、温度到達を予告します。到達するとピーと音が1回鳴り、加熱を終了します。

- すべてのボタンが点灯します。
- 加熱時間は、水量・水温・室温などによって多少異なります。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。

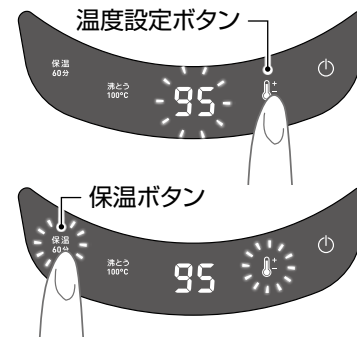


加熱中は、沸とうボタンが点滅します。

保温モード — 設定温度に加熱した後、保温する

① 温度設定ボタンを押して、保温したい温度を選択します。

- 保温の最高温度は95℃です。100℃に温度設定した場合は、95℃で保温されます。保温中に保温温度を変更する場合、設定可能な最高温度は90℃になります。
- 現在の水温より低い温度に設定した場合は、加熱されません。
- あらかじめ温度を設定している場合は、再度設定する必要はありません。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。



② 保温ボタンを押します。

設定した温度まで加熱した後、その温度で保温します。100℃に温度設定した場合は、95℃で保温されます。お湯の温度が設定温度に到達する直前に、ピッ、ピッ、ピッと音が3回鳴り、温度到達を予告します。到達するとピーと音が1回鳴り、加熱を終了します。

加熱中は、温度設定ボタン・保温ボタンが点滅します。

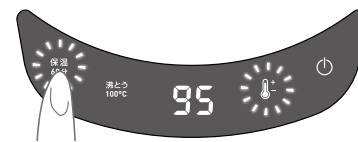
- 保温モード中は保温ボタンが点滅します。
- 保温時間は60分間です。
- 温度を設定していない状態で保温ボタンを押すと、60℃に加熱・保温します。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。
- 保温中にケトルを電源プレートから外しても、再度電源プレートにセットし、10秒以内に保温ボタンを押すと、保温が再開されます。

加熱、保温を中止するときは、

電源ボタンを押すか、保温ボタンを再度押します。

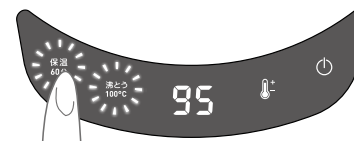
ヒント 保温は加熱中でも設定することができます。

温度設定モードで加熱中



保温ボタンを押すと、温度設定ボタンが点滅したまま、保温ボタンが点滅します。設定温度に加熱した後、その温度で保温します。

沸とうモードで加熱中



保温ボタンを押すと、沸とうボタンが点滅したまま、保温ボタンが点滅します。沸とう後は、95℃で保温します。

お知らせ

標高の高い場所では、水の沸点が100℃以下になります。

標高の高い場所で水を沸騰させると、温度表示が100℃になる前に加熱が止まります。沸騰させた後の保温温度も95℃以下になる場合があります。

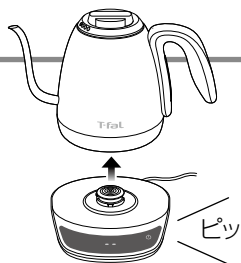
使い方（続き）

6 お好みの温度になったら、お湯を注ぐ。

沸とうがおさまってからお湯を注いでください。

- 本体を電源プレートからはずしてお湯を注いでください。
- ケトル本体を電源プレートに戻す際は、ケトル本体が安定していることを確認してから手を離してください。

電源オンにしている間はケトルをセットしたり、はずしたりすると、ピッという音が鳴ります。



！ 注意

- 取っ手以外のケトル本体および注ぎ口は非常に熱くなります。やけどをする恐れがありますので、触れないでください。
- 沸とう直後にふたを開けないでください。やけどをすることがあります。
- 本製品には給湯ロックの機能はついておりません。注ぎ口からは、常にお湯が出る状態ですので、扱いには十分にご注意ください。
- お湯を注ぐ際、急にケトル本体を傾けないでください。注ぎ口や蒸気穴から湯が飛び出すおそれがあります。
- 注ぎ口から出る蒸気や、ふたを開けるときの出る蒸気に触れないでください。
- 万が一ケトル本体を倒してしまった場合、蒸気穴からお湯が流れ出る可能性があるため、十分にご注意ください。

！ 注意

使用後、ふたを開けたときに、ふた内部から熱い湯滴が落ちることがあるので注意する
やけどをするおそれがあります。



湯沸かし中や湯沸かし直後は、絶対にふたを開けたり、ふた周辺や注ぎ口から出る蒸気に手を近づけたりしない
やけどをすることがあります。

お知らせ ケトル使用後しばらくすると、カチンツと音がすることがありますが、これは熱せられたプラスチックや金属部分が冷めるときに発生する音ですので、製品に問題はありません。安心してお使いください。

使い終わったら

電源をオフにして、残ったお湯を捨てます。

- ご使用後は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ご使用後は、水あかの付着をおさえるため、お湯を残さず、ケトル内部を空にしてください。
- お湯がふたの中に残っている場合があります。ふたを外す際には、ふたを取っ手側に傾けながらゆっくりと外してください。

お知らせ ご使用後は、個人差により取っ手と本体が熱く感じられる場合があります。



お手入れの方法

長期間清潔にご使用いただくためには、定期的にお手入れをしてください。

本体外側のお手入れ



本体が冷めるのを待ち、やわらかい布で拭いてください。がんこな汚れには、ぬらした布に中性洗剤を含ませてこすり、拭き取ってください。

！ 注意

- 必ず電源プラグを抜いて、本体が冷めるのを待ってからお手入れをしてください。
- ケトル本体と電源プレートを水に浸けることは絶対におやめください。故障の原因になります。
- 磨き粉や金属タワシ、漂白剤などを使用しないでください。傷がついたり変色したりするおそれがあります。

本体内側のお手入れ

内側に汚れが目立ってきたら、定期的にお手入れをしてください。

なお、本体内側の汚れ（白い浮遊物、虹色などの変色、白いはん点、赤さび状のはん点など）は、水に本来含まれるミネラル成分の作用によるものです。

衛生上問題ありませんので、ご安心ください。

通常のお手入れ



水でよくすすいだ後、乾いたふきんなどでしっかりと拭いてください。

汚れが落ちにくい場合—クエン酸を使って

- 1 水をMAX(満水)まで入れ、その中にクエン酸(15g程度)を入れて、かき混ぜます。
- 2 ふたを閉めて沸とうさせ、その後、約1時間放置します。
- 3 お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
- 4 クエン酸のにおいが気になるようでしたら、水だけを入れて、再度通常どおり沸とうさせ、お湯を捨ててください。

※ クエン酸を使用したお手入れは月に1回の頻度で行うことをお勧めします。

！ 注意

本体内側をお手入れする際は、柔らかいスポンジをお使いください。また、強くこすらないでください。表面に傷がつくおそれがあります。

故障かなと思ったら

このようなとき	原因	対処方法
ケトルが作動しない、 または沸とう前に 止まってしまう	コンセントにプラグが入って いない。	電源プレートのプラグを確実にコンセ ントに差しこんでください。
	空だきしたため、安全装置 が作動して、ヒーター部へ の通電が自動的に切れた。	ケトル本体を電源プレートからはず し、熱を冷ましてから水を入れてくだ さい。
加熱されない	設定温度が現在の水温より 低い。	設定温度を水温より高くするか、沸と うボタン（100℃）を押してください。
	水温を検知できない。	修理センターへご連絡ください。
	水温が85℃以上あり、安 全のために加熱が停止され た。	水温が84℃以下になるまで待ってか ら再度お試しください。
水が漏れる・ ふき出す	MAX（満水）目盛より多く 水が入っている。	水量をMAX（満水）目盛以下に減ら してください。
	水以外の飲料が入っている。	水以外は沸かさないでください。
	ふたの内部に水が残ってい る。	加熱する前にふたをよく振って、内 部に残っている水を排出させてくだ さい。


■ 下記のような点滅表示になったときは修理センターへご連絡ください。

点滅表示	状態
E1	水温を検知できない。
E3	1分間、加熱しても温度が上がらない。

製品仕様

電気ケトル Café Lock Control 0.8L（カフェ ロック コントロール 0.8L）		
定格電圧	100V ～	
周波数	50/60Hz	
定格消費電力	1250W	
最大容量	0.8L	
質量（全体）	約 1230g	
サイズ（全体）	幅	約 29cm
	高さ	約 22cm
	奥行き	約 22cm
電源コードの長さ	約 1.3m	
温度ヒューズ	192℃	

※仕様・デザイン・価格等は変更になることがあります。ご了承ください。
※本製品は日本国内のみで使用できます。
※本製品は中国製です。
※ 標高の高い場所、厳寒地などでは所定の性能が発揮できない場合があります。



愛情点検

●長年ご使用の電気ケトルの点検を！

こんな症状はありませんか？

- コード、電源プラグ、電源プレートに損傷が見られる。
- ご使用中にコードや電源プラグが異常に熱くなる。
- コードを動かすと通電したり、しなかったりする。
- いつもより本体が異常に熱くなったり、こげくさいにおいがする。
- 本体から水が漏れる。
- その他の異常・故障がある。


ご使用中止

このような症状が見られるときは、故障や事故防止のため、使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、必ずグループセブジャパン修理センターに点検・修理をご相談ください。

株式会社 グループセブ ジャパン


本社：〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館 4F

お客様
相談センター



0570-077772
ナビダイヤル® 受付時間：9:00～18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

部品注文
センター



0570-086072
ナビダイヤル® 受付時間：9:00～18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

修理センター

※ 商品により部品としての取り扱いのないものがございます。

12

13